

## 日本いも類研究会ニュース（令和4年7月）

### 1. サツマイモ基腐病に抵抗性のある焼酎・でん粉新品種「みちしずく」

農研機構は6月22日、サツマイモ基腐病に抵抗性のある、焼酎・でん粉原料用新品種「みちしずく」（旧系統名：九州200号）を育成したと発表しました。現在主力品種として普及している焼酎原料用の「コガネセンガン」よりもサツマイモ基腐病に強く、多収です。同封の「いも類振興情報」No.152「令和3年度かんしょ品質評価研究会の概要」でも紹介されているとおり、焼酎にした時の酒質は「コガネセンガン」と類似し、香り高い酒質と評価され、「コガネセンガン」に代わる焼酎原料として有望とされています。

また、でん粉収量が多く、でん粉の白度も高いため、でん粉原料用としても優れています。今後、南九州のサツマイモ産地において、焼酎・でん粉原料用品種として普及する予定で、令和4年春より種いも生産を開始しており、令和5年に130haで栽培可能な種いも10トンの増殖が見込まれています。

（詳細は、以下のページをご覧ください）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/karc/153663.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/153663.html)

### 2. 農水省「食料の安定供給に関するリスク検証（2022）」を公表。

農水省では、我が国の食料安全保障の確立に必要な施策の検討に資するよう、食料の安定供給に影響を及ぼす可能性のある様々な要因（リスク）の洗い出しと検証を行い、今回、その結果をとりまとめ、公表しました。

リスクについては、国内は労働力や病害虫等の10項目、海外は燃油や温暖化等15項目について、それぞれリスクの起こりやすさを5段階に分けており、重要なリスクについては、サツマイモ基腐病等の病害虫の発生、優良品種の海外への持ち出し（知財流出）、化学肥料の価格高騰等が挙げられています。（別紙参照）

（詳細は以下のページをご覧ください。）

[https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/220621\\_14.html](https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/220621_14.html)

### 3. 令和4年度の活動予定について

本年度の日本いも類研究会、（一財）いも類振興会、サツマイモ情報センターの活動は主にオンラインによるリモートで行う予定です。対面による講演会はコロナ感染症対策の関係もあり、開催は難しいことをご了承ください。

本年は、いも類関係予算について概算要求および決定段階で農林水産省担当官から説明をいただく予定です。

また、サツマイモ基腐病については2回を目途に令和3年度同様の情報交換会を開催することにしております。（活動予定（案）は別紙）

## かんしょのリスク分析・評価

### ○ 需給構造（需要、国内生産と輸入）

#### （1）需要動向

- ・ 食の外部化の進展により、加工食品用の需要は維持されているものの、生食用は微減傾向となっている。また、アルコール用について、焼酎ブームにより増加傾向で推移していたが、ブームの落ち着きにより近年は減少傾向にある。

#### （2）供給動向

##### ① 供給構造（国内生産と輸入の関係性）

- ・ かんしょの需給構造のうち、国内生産量は約9割、輸入量は約1割。
- ・ 国内生産は70万トン程度で推移。一方、輸入は5万トン程度で全量が加工品向け。
- ・ 青果用約5割、加工食品用約2割、焼酎用約2割、でん粉原料用約1割。

##### ② 国内生産の特徴

- ・ 焼き芋ブームにより国産の人気の高まっている一方で、サツマイモ基腐病の影響等により焼酎用、でん粉原料用の供給量が不足している状況。
- ・ 海外でも焼き芋ブームが起きており、「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」において、かんしょ・かんしょ加工品は輸出重点品目に選定され、2025年までに輸出額28億円を目指すこととしている（2013年輸出額：3億円、2021年輸出額：23億円）。
- ・ 機械化が遅れており播種・定植、収穫に労働時間を要している。
- ・ 種いもは全量が国内生産。

##### ③ 輸入の特徴

- ・ 国内流通量のうち輸入品のシェアは約1割であり、輸入量全体の6割が中国産である。
- ・ 輸入量のうち冷凍品が全体の4割（うち2割が中国産）。

#### （1）重要なリスク

【国内:病害虫】サツマイモ基腐病等が発生したほ場においては、連作により被害が拡大するほか、雨水の流入などがまん延を助長し、発生が拡大した地域では輪作等の対応が必要となる。

【国内:知財流出】近年の東アジア地域を中心としたかんしょの需要拡大を背景に、国内の優良品種が海外に持ち出され、我が国の良質なかんしょの生産や輸出へ影響を与えるリスクがある。

【海外:肥料】化学肥料原料の大半を輸入に依存しているため、国際情勢の変化による価格高騰等の影響を受けるリスクがある。

#### （2）注意すべきリスク

【国内:労働力不足】かんしょについては、機械化が進んでいないことから、将来的に労働力不足に陥った場合、影響度が大きい。

【国内:関係人材・農地減少】少子高齢化・人口減少が本格化する中で、農業就業者数や農地面積が減少し続けるなど、生産現場は依然として厳しい状況に直面しており、今後、経営資源や農業技術が継承されず、生産基盤が一層脆弱化することが危惧される。

【国内:異常気象】低温、日照不足や多雨等の影響により不作が続いた場合、品質や単収に影響。

【国内:温暖化】これまでに確認されなかった病害虫被害や生育障害の発生が懸念される。

【海外:燃油】ロシアによるウクライナ侵略などの国際情勢の変化が、世界の原油価格や需給に大きな影響を与える可能性がある。

## ばれいしょのリスク分析・評価

### ○ 需給構造（需要、国内生産と輸入）

#### （1）需要動向

- ・ 生食用については、ほぼ全量が国内産で供給されているものの、食生活の多様化により消費は微減傾向。
- ・ 加工食品用については増加傾向にある中、ポテトチップ用、サラダ用、コロッケ用等については、ほぼ国内産原料によって賅われている。
- ・ 国内でん粉需要の1割程度が国産であり、そのほとんどがばれいしょでん粉で賅われている。

#### （2）供給動向

##### ① 供給構造（国内生産と輸入の関係性）

- ・ ばれいしょの需給構造のうち、国内生産量は約7割、輸入量は約3割。
- ・ 国内生産は220～240万トン程度で推移。一方、輸入はフライドポテト用等の加工品で100万トン程度。
- ・ 青果用約2割、加工食品用約5割、でん粉原料用約2割。

##### ② 国内生産の特徴

- ・ ポテトチップ原料については原料原産地表示の実施などを踏まえ、実需者から供給量の増加が求められているものの、主産地である北海道においては、農家一戸当たりの規模が拡大する中で軽労作物への転換が進み、ばれいしょの作付面積が減少しており、供給量は需要量を満たせていない。
- ・ 機械化が遅れており播種・定植、収穫に労働時間を要している。
- ・ 種いもは全量が国内生産。

##### ③ 輸入の特徴

- ・ 輸入品のうち生鮮品では、米国産のポテトチップ用について、植物防疫所長が指定する加熱加工処理施設で加工されることを条件に認められている。
- ・ 輸入量全体に占める中国のシェアは1割未満。
- ・ 輸入の大半を占めるフライドポテト用の輸入が減った場合、国産でも代用が可能であるが、国産の供給量の制約がある。

#### （1）重要なリスク

【海外:肥料】化学肥料原料の大半を輸入に依存しているため、国際情勢の変化による価格高騰等の影響を受けるリスクがある。

#### （2）注意すべきリスク

【国内:労働力不足】生産に当たり、収穫時には機上選別等について、多くの臨時雇用者が必要であるが、近年労働者の確保が困難となっているところであり、労働力の確保、更なる機械化の推進等が必要。

【国内:関係人材・農地減少】少子高齢化・人口減少が本格化する中で、農業就業者数や農地面積が減少し続けるなど、生産現場は依然として厳しい状況に直面しており、今後、経営資源や農業技術が継承されず、生産基盤が一層脆弱化することが危惧される。

【国内:異常気象】近年、低温・日照不足と高温・干ばつを1年おきに繰り返している。生産の8割を占める北海道において、不作が続いた場合、国内の需要に対応できない。

【国内:温暖化】これまでに確認されなかった病害虫被害や生育障害の発生が懸念される。

【国内:病害虫】ジャガイモシストセンチュウが発生すると根絶が困難であり、産地にまん延すると種ばれいしょ生産に大きな打撃を与え、ばれいしょ生産全体に影響。

【海外:燃油】ロシアによるウクライナ侵略などの国際情勢の変化が、世界の原油価格や需給に大きな影響を与える可能性がある。

## 令和4年度の日本いも類研究会等の活動予定(案)

活 動 内 容	令和4年	令和5年
いも類振興情報創刊号よりすべての号をWeb掲載	6月	
いも類振興情報7月号（第152号）発行	7月	
日本いも類研究会幹事会 第1回 （サツマイモ情報センターの活動、mini白書の改定、新品種試験栽培の取り扱いなど）	7月	
サツマイモ産業振興セミナー「サツマイモ情報交流ネットワーク2022」	8月	
サツマイモ基腐病の現状と対応に関する情報交換会（発生状況）	8月	
農林水産省いも類関係予算説明会 第1回（概算要求について）	9月	
かんしょ品質評価研究会 第1回（評価試験準備、試験系統搬入予定）	9月	
農林水産省消費者の部屋（さつまいも・じゃがいもの週）準備	9月	
いも類振興情報10月号（第153号）発行	10月	
サツマイモ産業振興セミナー（テーマ未定）	10月	
ポテトチップス試食調査	10月	
令和4年度いも類講演会のテーマ・講演者の選定及び連絡・調整	10月	
農林水産省消費者の部屋（さつまいも・じゃがいもの週）	10月	
ジャガイモシストセンチュウ、シロシストセンチュウ関係情報交換会	11月	
ポテトチップス試食調査フォロー懇談会	12月	
サツマイモ基腐病の現状と対応に関する情報交換会（主に収穫状況）	12月	
いも類振興情報1月号（第154号）発行		1月
令和5年度いも類振興情報編集会議		1月
農林水産省いも類関係予算説明会 第2回（概算決定について）		1月
かんしょ品質評価研究会 第2回（評価試験結果報告会）		1月
さつまいもシンポジウム		2月
日本いも類研究会幹事会（事業報告、収支報告討議）		2月
令和4年度日本いも類研究会総会・講演会		3月

注：活動予定の中には、令和4年度から日本いも類研究会の新しい取り組みとして開始するサツマイモ情報センターの活動及び（一財）いも類振興会の活動内容を含んでいます。